

昭和44年度 和歌山県文化賞

くる す やす いち
栗 栖 安 一 (号 昴庵)

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県和歌山市

生 年：明治36年

◎業績及び経歴

大正14年国学院大学高等師範部卒業とともに教職につき、戦前は和歌山商業学校教諭、県視学、高野町青年学校長。戦後は串本商業学校長等を歴任して旧制中等学校教育に従事し、更に県職員研修所長として県職員の研修に、また、県教育委員会委員として教育行政に参画した。その後、昭和36年以来県文化財専門審議会委員(昭和40年以来現在まで委員長)、県政史編さん委員等文化関係機関および団体の要職をかねて活躍している。

氏は郷土史の研究者として知られるとともに、特に無形文化財、民族資料の研究の権威者で、各種文化出版機関に郷土の人物、伝説、名所旧蹟等の紹介執筆の原稿を寄せ、あるいは「紀の国物語」「紀州夜話」「郷土の人物」等の放送を通じて地方文化の啓もうと向上に貢献しているほか、地方の無形文化財や民俗資料を調査して文化財の保護に尽力している。

更に、氏は歌人としてもすぐれ、昭和28年以来毎日新聞和歌山歌壇の選者として、昭和31年から同37年まで読売新聞和歌山歌壇選者も兼ねて郷土の歌人達の指導にあたるほか、県立美術館の創設や開所初期の運営に尽力したり、文化財保護、わけても民俗、芸能の保存に尽くした功績も大きい。

著書は「解説吉田松陰遺文集」(正、続2冊)、歌集として「紀州路」、同人歌誌「くぐひ」(大正14年創刊、現在293号)等があるほか、「和歌山県災害史」、「和歌山県政史」、「中辺路を行く(その文学と歴史)」等の編集にも参画している。